

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 友松知宏

1. 概要

地域分類	山陽道東進—4
歩行区間	スタート地点:JR 呉駅
	ゴール地点: JR廿日市駅
実施期間	平成 27 年 06 月 6日(日)~10日(水)
全歩行距離	81. 8Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー&記録	友松知宏	75歳	4日	8期
2		友松和子	76歳	2日	
3		芳森佳子		4日	大阪府立大学WV OB
4		松尾隆		1日	大阪府立大学WV OB

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	6月 6日	JR 東京 ~JR 呉駅 JR 米子 ~JR 呉駅		芳森 友松×2	ビジネスホテルクレ泊 同
2	6月 7日	ホテル(タクシー) 7:50~8:00 旧海軍墓地~ 9:00 大和ミュージアム 10:00~12:10 音戸瀬戸 (渡船)⇒かつら亭 13:00~15:30 早瀬大橋 A) (送迎車)⇒16:00 民宿えくぼ B) 早瀬大橋~16:50 柿浦(タクシー)⇒17:40 えくぼ	14.5Km 5.3Km	芳森、和子 友松	大和戦死者慰霊碑 大和ミュージアム見学 かつら亭食事 海辺の宿えくぼ泊
3	6月 8日	7:30 えくぼ(タクシー)⇒7:50 柿浦~ 10:00 江田島中央(術科学校) 11:40~ 12:10 小用港 A) 12:30 ~14:06 切串港 14:17(フェリー) ⇒ 14:30 呉ポートピア~16:00 JR 坂駅⇒ 広島~東横イン新幹線口) B) 12:45 (フェリー)⇒13:05 呉港~JR 呉駅⇒ 14:10 JR 坂 14:20~15:50 海田~16:30 黄金 橋~18:30 JR 広島駅~18:40 東横イン	7.3Km 2.0Km 6.2Km 14.1Km	芳森、和子、松尾 友松	松尾 隆さん合流 東横イン新幹線口泊
4	6月 9日	東横イン 7:40~8:50 平和記念公園~			

		9:50 天満町	2.5Km		
	A)	9:55 広電天満町駅(広電)⇒10:15 修大鈴峰女子短大駅 ～11:15 廿日市大橋～11:45JR廿日市駅	4.9Km	芳森	
	B)	天満町 10:00～11:00 ぽぷら(草津)～11:55 広電修大鈴峰女子短大駅(広電)⇒ 12:05 広電廿日市駅～12:10JR 廿日市駅 (前回の歩行に接続)	10.5Km	友松	17.9Km

3-2 前回計画の積み残し分

前回(山陽道東進4で祝島の「平さんの棚田」を歩きそびれたので、今回再訪問し、歩いた。)

	月日	出発地 ～ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
4	6月 9日	JR 廿日市 12:50⇒13:30 柳井駅 14:50⇒ 柳井港駅～柳井港 15:45(フェリー)⇒ 16:55 祝島～みさき旅館			柳井の街並見学 みさき旅館泊
5	6月 10日	みさき旅館 7:45～ 8:45 平さんの棚田 10:00～ 11:00 みさき旅館～12:30 祝島港(フェリー)⇒ 13:40 柳井港～JR柳井港駅 14:07 発⇒15:32 広島着(解散)	9.0Km		平さんの棚田見学

4. 参加費

交通費	JR 東京～呉 (米子～呉) 柳井～祝島連絡船他	38,040 3,290	(27,800)
宿泊費		24,000	
食事代		5,500	
飲料等		3,000	
雑費(入館料等)		500	
合計		74,330	(64,090)

6. 歩行の詳細

6月7日（曇）

7：00 ホテルロビー集合、ホテルの前にあるファミリーレストランで朝食。駅前タクシーに乗り、海軍墓地へ行く。ここは戦時中、戦艦に乗り亡くなられた方々の慰霊の地。タクシーに待ってもらい、戦艦大和戦死者の慰霊碑に詣で、リコーダで祈りの曲「アヴェ・マリア」を吹奏した。タクシーで美術館通りの入口まで行き、歩行を開始。

9：00 大和記念館へ入館。ウィークデーにも関わらず開館直後から満員。戦艦大和の10分の1模型、零式戦闘機（実物）、出征兵士の遺書などが展示されている。展示の兵士遺書のなかに下宿先のお母さんに狼藉を働いて、そのことを詫びる手紙がある。不本意にも死地に赴かなければならない若者の生への本能と、狼藉を許し、柿崎中尉からの手紙を大切にしていた倉重アサ子さんの心情が偲ばれ涙を誘った。



戦艦大和戦死者慰霊碑



大和ミュージアム前



10分の1戦艦大和戦模型

10：00 同館出発 倉橋島との海峡、早瀬大橋に向う。途中、潜水艦軍港の前を通過。大型の潜水艦が1隻停泊しているのが見える。遠くではあるが、本物の迫力。時々道を尋ねると、皆さん親切に教えてくれる。特に、若い方が親切なのに驚く。米軍基地もあり、国際感覚が発達しているのだろうか。

12：10 音戸の瀬戸。ここは日本一短い渡船場。航路全行程60m。大橋があるが、歩行車と自転車のために渡し船が残っている。船着き場にいた中年男性が大声をあげて、対岸にいる船を呼んでくれた。対岸の和食レストランで食事。この地を拓いた平清盛を祭る社と像がある。

13：00 かつら亭出発。

早瀬の近くで、自転車に野菜を積んだ若者二人連れと一緒にになった。技術習得のためにベトナムから来日中とのこと。たぶん自炊の材料と思われるイチゴをご馳走になった。笑顔がさわやかな青年たちであった。



渡し船（片道160円）



この地を拓いた平清盛の像



ベトナムからの技術研修生

15：30 早瀬大橋東口に到着。途中電話でお願いしていた、宿の迎えの車が同時に到着。芳森、和子の2人が先に今日の宿「海辺の宿えくぼ」へ投宿。友松はそのまま大橋を江田島へ渡り、柿浦まで歩く。

16:50 ちょうど着いた場所にタクシー会社があり、飛び乗り。約束刻限17:30に滑り込みセーフ。ここは、海辺の別荘地の一軒を（食事つき）貸し別荘として、夕食だけは宿の主人が世話してくれるが、他は一切セルフサービス。テラスでバーベキューを準備してくれていた。火力が強く、固焼きせんべいになってしまった焼き肉で、ビールの乾杯。1日目が終わった。



海辺の宿「えくほ」



テラスでバーベキュー

6月8日（曇⇒雨）

7:50 昨日のタクシーが迎えに来て、昨日の終点、柿浦へ行き、2日目をスタート。

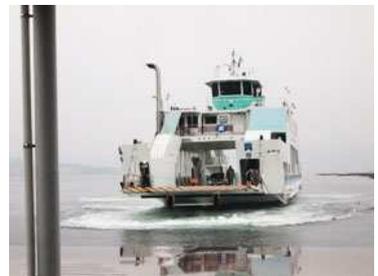
足を痛めて参加を危ぶまれていた芳森さんが快調にとばし、海上自衛隊術科学学校（旧海軍兵学校）に余裕で到着。見学の手続きをし、ロビーで学校の沿革などの説明を受け、100名ほどが一団となって、校内を案内してもらった。自由時間になったところで、案内の職員に断って、少し早目に辞去、松尾さんとの待ち合わせ場所、小用港へ急ぐ。雨がポツリポツリ始まった。12:10小用港到着。松尾さんと合流。手ごろなレストランが見つからず、えくほで余ったご飯で作った握り飯で腹ごしらえし、2チームに別れ出発した。



海自術科学学校



小用港で松尾さんと合流



呉へ行く連絡船

Aチーム（芳森、和子、松尾）

12:30 小用港発。14:05 吹越棧橋着、14:17 フェリー発、14:30 呉ポートピア着
和子さん米子に帰宅。雨の中幹線道路を 松尾さんと歩行、途中、水尻駅にて 和子さん乗車
の電車で手を振る。16:00 坂着。電車で広島へ。

Bチーム（友松）

12:45 フェリー発。13:05呉港着、JR呉駅より電車。
発車すると同時に中年のご婦人に声をかけられ、坂駅まで話
がはずむ。坂駅で下車、国道を渡ったところでお別れした。
北 仁美さんと、最終日（6月10日）に再会するが、その
経緯は後日談の項で報告する。雨が激しく、歩道橋の下で雨
具を着ける。



北 仁美さん

14:20 坂駅出発。雨足がつよくなり、雨具（ポンチョ）の中も
濡れてくる。2号線を海田のあたりで県道164へ乗換え、向洋駅前を通って線路沿いの道を

捜して広島へ向うつもりでいたが、国道が高架になっていて県道に移ることができず、元へ戻るのも煩わしく、どこかで降りられるだろうとそのまま進行、橋を瀬野川にかかった橋を渡ったあたりから県道から遠ざかる方向に進み、完全に大周りに迂回。猿こう川の黄金橋を渡ったあたりから川沿いに広島へ向う。念のためにガソリンスタンドで道を確認したところ、川沿いは歩道がないから、と広い道を勧められる。しかし広島から3キロほど離れてしまうので、親切に教えてもらったが、川沿いの道に入った。確かに歩道はなく、代わりに水たまりがそこかしこにあり、対向車がくるとその度に道の端に退避。結局予定より1時間半遅れの7時ごろに東横イン到着。結局、芳森さん松尾さんの待つ魚料理店に8時近くになって合流。お二人にはたいへんご迷惑をおかけした。おまけに坂でお別れした北さんの住所を書いたメッセージの紙をなくしてしまい、雨に祟られた1日であった。

6月9日(曇)

7:50 東横インを出発。8:50 平和記念公園到着。観光客の他に、社会勉強の子どもたちが大勢来ている。原爆ドーム、折鶴の像、平和の火を見た。人が多いので、ドームの裏にまわり、「故郷」その他を吹いた。



原爆ドーム



芳森佳子さん

9:55 広電天満町駅で別れ、芳森さんは広電に乗車、友松はそのまま歩く。

Aチーム(芳森)

9:55 広電乗車、10:15 修大鈴峯女子短大駅から 歩行開始。気持ちのよい海沿いを歩行。

11:15 はつかいち大橋を下った所で 廿日市市に入る。ずっと まったく人と会うことなく のどかな瀬戸内海を眺めながら歩く。11:45 JR廿日市駅到着。

Bチーム(友松)

9:55 広電天満町駅より、南下。庚午橋を南下、広電に沿って宮島橋を歩く。11:55 修大鈴峯女子短大駅で広電に乗車、12:10 廿日市駅に到着。5分ほどでJR廿日市駅到着。お好み焼き屋にいた芳森さんと合流。ここで前回「山陽道東進一3」の終点につながった。

この後、フェリーまで時間があるので、柳井市の街並みを観にゆくことにする。12:50 JRに乗車。13:30 柳井到着、1時間ほど街を観光。JRで1駅戻り柳井港行く。



柳井市の街並

14:50 柳井港出航⇒16:55 祝島着。旅館へ直行、荷物を置いて島内観光。1軒あった酒屋さんでアルコール類とつまみ等を買った。前の晩に電話で食事の用意ができない旨連絡があったのだが、弁当を用意してもらった。これも島内1軒の食堂でつくってもらったらしい。瀬戸内の鮮魚を期待?していた芳森さんには気の毒をした。祝島の名前の由来になった、万葉集和歌。この後に「



全国でも珍しい練塀の路地



一軒酒屋で酒をゲット。万歳



万葉集歌碑

6月10日(曇)

7:45 出発、平さんの棚田に向う。祝島は前回も来ているが、棚田を観る時間余裕がなく、今回2度目の訪問になる。集落の西のはずれから登り道、その後、山壁にそって歩く。一面の枇杷畑で、バイクのご婦人に枇杷を頂き、歩きながら頂いた。8:45 樹木のトンネルをぬけると、平さんの棚田が目前にそびえている。城壁のような石垣。これがすべて重機を使わず、3代にわたって人手だけで作られたとは到底信じられない。作業小屋に備え付けのノートに記帳しているところへ、平 萬次さんが上がってこられた。作業の準備をされる10分ほど間、お話を聴くことができた。棚田は5段、各段10mほどに造られており、作業小屋の上の段に稲が育っている。畦が作業小屋の屋根より高い位置にあり、高所恐怖症の私は歩くことができない。なぜこんな急斜面に田んぼを造ったのかとお聴きしたら、この土地しか持っていなかったから、と当然のようなお答え。でも普通の人は考えつかないのでは?



急斜面に枇杷畑が広がる



平さんの棚田の作業小屋



稲田、怖くて畦を歩けない

14:50 柳井港出航。13:40 柳井港着。JRで広島に出て、解散とする。芳森さんはそのまま東京へ。友松は坂でお別れした北さんを探して再び坂駅に戻り。北さんと再会后、岡山経由米子へ帰った、



みさき旅館のお母さんと

7、メッセージ

お会いした方々のメッセージ			
お名前	山本珠江	年月日	27.06.09
場所	広島県廿日市市(味のサファイヤ)	時間	
メッセージ	お会いしてとてもうれしいです。 またお元気で会えると嬉しいです。またのご来店をよろしくね。		

お会いした方々のメッセージ			
お名前	みさき旅館	年月日	27.06.10
場所	山口県上関町祝島	時間	
メッセージ	ようこそ、祝の島をお訪ねくださいました。よい旅をお続けくださいませ。 祝島は30年間原発反対のデモが月曜毎、30年間続いております。対岸の予定地を30年間守り続け、建てさせていません。山も海も昔のままです。		

お会いした方々のメッセージ			
お名前	北 仁美	年月日	27.06.08
場所	呉駅、JR呉線車内	時間	
メッセージ	菅笠を見て、これは面白そうな人！と声をかけました。壮大で地道な旅の話、楽しかったです。 歩いてしゃべって、笛を吹いて。趣味がおしゃべりの私にとって、たのしいひと時でした。3度目にお会いできる日を楽しみにしています。お元気で！！		

注) この他にもメッセージを頂きましたが、6月8日、坂から広島へ向う途中に紛失したらしく、書いて頂いた方々には申し訳なく、お詫びします。特に、初日倉橋島でお会いしたベトナムからのお二人には、自分たちのために買われたイチゴをご馳走して下さるなどの親切を無にするようで心苦しく思います。芳森さんがスマホに写していた自転車に書かれた会社の住所に、会社あてに写真等をお送りし、戻ってはおりませんので、たぶん届いたのだらうと気を休めております。

北さんのメッセージは、後日、書いて送って頂きました。

8、後日談

北 仁美さんに2度お会いしました。奇跡の再会です。

最初は6月8日の2時頃。私は芳森・松尾チームと分かれて単独JR呉駅から呉線に乗車、次の出発点坂駅に向いました。

すぐに北さんが話しかけてきて、坂駅までの30分があつという間に過ぎてしまうほど話が弾み、写真をお送りする約束で住所も書いて頂きました。北さんも坂駅で下車。私は広島方向へ、北さんは呉方向へとお別れしました。

住所の紙をなくしたことに気がついたのは翌日、歩き始めてから。前夜宿泊した東横インに電話をしましたが見つからず。前日、雨のなかで落とした可能性もあり、諦めざるを得ませんでした。

しかし約束が気がかりで鬱々としておりましたが、最終日、北さんを捜しに行こうと決心。広島駅で解散後、再び坂の町へ戻りました。

雨の中を歩いて帰られましたので、遠くても1キロ。このあたりと見当をつけて交番へ行きましたが分からず。次に町役場を訪ね、すいていた窓口でカメラの画像を見てもらったら一眼で「北さん!」とわかり、すぐに連絡。家に来るようにとのことで、地図も用意して頂きました。

お宅は先刻の交番のすぐ近く。道に戻って行くと、遠くから北さんが自転車で手をふりながら、走って来るのが見えました。

こうして北さんに再会。お宅にお邪魔し、コーヒーを頂き、高齢のお母様に笛を吹いてさし上げたところ口のなかで歌われて、楽しいひと時を過ごしお暇しました。

更に後日談

私が音楽が好きだろうと、北さんのご友人、広島に住むシンガーソングライター「げんきなこ」さんのCDを送って頂きました。そのなかの「島風」をギター弾き語りしたいからと楽譜をお願いしたところご本人「きなこさん」から直接送って頂き、以後きなこさんと電話やメールで親しくお話しさせて頂くようになりました。「島風」は結局、私が世話人をする音楽グループのソプラノ歌手、岸美登里さんがきなこさんと連絡しあいながらピアノ伴奏の譜を書き、自分で歌いはじめ、会のメンバーにも「げんきなこ」ユニットにお出で頂こうという機運が高まってきました。

きなこさんのご主人は「元気さん」でお二人合わせて「げんきなこ」ですが、元気さんはパーキンソン氏病を患われており、お二人で患者会の皆さんに音楽で慰問活動をされており、同じ音楽仲間として、少しでもお役にたてたらと思っているところです。

以上